〈参考資料－３〉

「最上川圏域の課題と当面の進め方」より一部抜粋

4.1　最上川水系上流部（置賜・村山地域）での河川整備

最上川上流部（村山及び置賜地域）につきましては、村山及び置賜地域で戦後に起きた最大規模の洪水である昭和４２年８月洪水（羽越豪雨）、村山地域の一部支川では昭和５１年豪雨相当規模の洪水が発生した場合に想定される住家への氾濫を防ぐことを目指します。

【 主な取り組みは以下のとおりです 】

- 最上川水系の洪水調節の一端を担うダムの整備を推進します。
  長井ダムについては平成２２年度、綱木川ダムについては平成１９年度、留山川ダムについては平成２０年代早期の完成を目指します。

建設中の長井ダム



- 須川では上流を整備する県と下流を整備する国とで連携を図りながら整備を推進します。
  須川下流での引堤事業、門伝橋下流の重点整備区間の整備を進めます。



須川　引堤事業進捗状況

● 吉野川において、洪水流の際に支障となっている山形新幹線ＪＲ橋の架替を推進します。

● 羽黒川においては、学識経験者等により構成される「羽黒川川づくり検討委員会」にて河川改修の方向性について検討重ね、景観や環境に配慮した川づくりを目指します。

● 大旦川の改修を進めます。狭窄部入口で内水被害常襲地帯でもある同地区では内水対策を実施し、被害の軽減に努める必要があります。



大旦川流域被害状況【平成１４年７月洪水】

● 竜山川において、ＪＲ橋梁架替を含めた元木工区の整備を推進します。



竜山川　架替になったJR奥羽本線元木沢橋梁

● 質的に劣っている既設堤防について、その強化を図ります。
破堤時の被害の大きさや、現在の堤防の能力等を勘案しながら、優先度の高い箇所から整備を進めます。

● 内水被害常襲地区において、内水安全度の向上を図ります。
施設対策のみならず、流出抑制対策や盛土規制などを組み合わせた総合治水対策を推進します。